

更級への旅

「更級日記」作者生誕千年・その六

69

菅原孝標女の夫は信濃守とし

て信州に赴任したことがあります

した。守とは行政長官現在で

言えば県知事のような立場で

平安時代は都の京から貴族階級

の男性が派遣されました。守が

仕事をする場所が国府と呼ばれます。

孝標女の夫の時代である

十一世紀中ごろは、現在の松本

市にあつたと考えられています。

が、それより先一番初期の国

府は現在の千曲市屋代雨宮

地区（旧埴科郡）にあつた可能

性が指摘されるようになります

が、それより先一番初期の国

府は現在の千曲市屋代雨宮

地区（旧埴科郡）にあつた可能

性が指摘されるようになります

が、それより先一番初期の国

府は現在の千曲市屋代雨宮

地区（旧埴科郡）にあつた可能

性が指摘されるようになります

が、それより先一番初期の国

府は現在の千曲市屋代雨宮

地区（旧埴科郡）にあつた可能

規模で行政を司っていた更科郡をはじめ北信濃の郡の長官のこと。つまり、国府から出された

指令が更科郡から水内高井を回つて埴科の郡役所に届いたと

考えられています。どんな指令

だったかは、この木簡 자체が用

を終え、現在で言えば公文書が

シユレッダーにかけられるよう

に、裂いて廃棄されたものな

で分かりません。ほかにもそ

して木簡がいくつも出ているの

で、廃棄された場所の屋代、雨

宮両地区に信濃国府があつたと

も考えられるのです。木簡は総

称して屋代木簡と呼ばれます。

屋代木簡が見つかるまでは、

初期の信濃国府の所在地は松本

信濃守として赴任した作者の夫

ではなく上田と考えられていま

した。全国的に国府は、平安時

代の前の奈良時代、聖武天皇の

命で国家平安を祈願して各地に

ではなく上田と考えられていま

した。全国的に国府は、平安時

代の前の奈良時代、聖武天皇の

命で國家平安を祈願して各地に

ではなく上田と考えられていま

した。全国的に国府は、平安時

代の前の奈良時代、聖武天皇の

命で國家平安を祈願して各地に

しているのは、いざれも古代は

東山道という国道沿いだつたこ

とです。東山道は租庸調などの

税をはじめとする物や情報を

都と地方間を往来させる道とし

てとても重要でした。

一番初期の国府が屋代にあつ

たとすれば、当時の役人たちは

姫捨山（冠着山）越えをしてい

たことが確実です。孝標女の夫

の赴任先の国府は松本に移つて

いましたが、「遠い昔の国府は

みがえる信濃の古代」の中で岐

阜大学の早川万年さんは、中央

政府である朝廷が信濃を日本海

側の蝦夷に対する軍事拠点と位

置づけていたと指摘しています。

となると、越後へと抜ける

ルート沿いの屋代に国府があつ

たとしても不思議ではありません。

国府の所在地が時代とともに移

転したのは確実です。推定地と

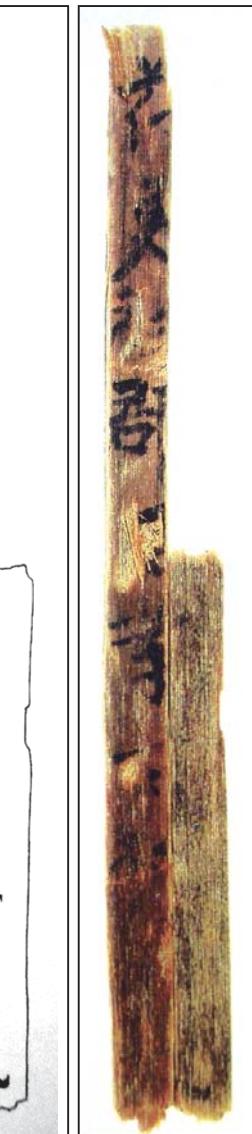
される松本、上田、屋代で共通

する遺跡が出てきたのです。そ

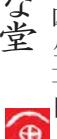
の代表が「更科」の文字が墨で

記された木簡（写真右）です。

木簡はまだ紙がとても貴重な時



発行 二〇〇八年四月二十日
編集 さらしな堂
(代表・大谷善邦)



…（写真左）と記されています。
道員として用いられました。
この木簡には「府更科郡司等
府は信濃國府のこと、「更科郡
司等」は国府のもとで現在の郡

（代表・大谷善邦）
長野県千曲市若呂一八四一六
(旧更級郡更級村)